

## フランス文学と食—ブリヤ＝サヴァランを読む

科目責任者 宮川知子  
学年・学期 1学年・1学期

### I. 前 文

本講義では、ブリヤ＝サヴァランによる『味覚の生理学』（日本では『美味礼讃』という訳書名で知られる）を扱う。この「生理学」を冠した著書名からも分かる通り、サヴァランは、食を語るに際し、医学、生理学を援用した。当時、文学の中で主題として扱うことがタブーとされていた「食」の表象が、19世紀を通してどのように変化していったのかについても、18世紀末～19世紀のフランスの社会状況を踏まえつつ明らかにする。

### II. 担当教員

非常勤講師 宮川知子 獨協医科大学 基本医学

### III. 一般学習目標

ブリヤ＝サヴァラン『味覚の生理学』を読み解くことによって、作者自身が伝えようとした人間が食べることの意味、特に食の喜びと食卓の喜びについて考える。

### IV. 学修の到達目標

- 1) 医師としての立場から、生きることに直結する「食べる」という行為について考える。
- 2) ただ食べることと食を楽しむことの違いに注目する。
- 3) ただ生きることと、よりよく生きることの違いについても考えたい。

### V. 授業計画及び方法 \* ( ) 内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1: 反転授業の要素を含む授業 (知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。)  
2: ディスカッション, デイバート 3: グループワーク 4: 実習, フィールドワーク 5: プレゼンテーション  
6: その他 空欄: 該当なし)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担当者	アクティブラーニング
1	5	13	水	5	導入：ブリヤ＝サヴァランと『味覚の生理学』の概要 「教授のアフォリズム」を読む	宮川知子	1, 2, 5
2		20	水	5	「感覚について」「味覚について」を読む	宮川知子	1, 2, 5
3		27	水	5	「ガストロノミーについて」「食欲について」を読む	宮川知子	1, 2, 5
4	6	3	水	5	「グルマンディーズについて」「グルマンについて」を読む	宮川知子	1, 2, 5
5		10	水	5	「食卓の快樂について」を読む	宮川知子	1, 2, 5
6		17	水	5	「消化について」, 「休息について」を読む	宮川知子	1, 2, 5
7		17	水	6	「死について」を読む：全体のまとめ	宮川知子	1, 2, 5

### VI. 評価基準 (成績評価の方法・基準)

履修者をグループ分けし、担当を決め各授業ごとに発表を行う (40%)。期末レポート作成 (30%)。出席・授業への取り組み (30%) により総合的に評価する。

Ⅶ. 教科書・参考図書・AV資料

ブリヤ＝サヴァラン,『美味礼讃(上・下)』,関根秀雄・戸部松実訳,岩波書店,1967.各935円

Ⅷ. 質問への対応方法

講義中及び講義後に随時受けつける。

Ⅸ. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

\*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	
<b>医師としてのプロフェッショナリズム</b> 幅広い教養, 利他の精神, 医師に求められる品格を身につけ, 豊かな人間性を育み, 他の医療者と協調して, 多様な価値観を尊重する全人的な医療を実践できる	◎
<b>能動的学修能力</b> 医学知識・技能を主体的に学び, 情報・科学技術を活用して, 生涯にわたって自ら問題を発見し, 解決することができる	
<b>地域医療の理解</b> 地域社会における医療の役割と, その中核を担う意味を理解できる	○
<b>国際性</b> 国際社会における医学・医療の動向や課題を理解し, 課題解決に向けて行動することができる	
<b>リサーチマインド</b> 研究活動における積極的な創造・発信に挑み, 医学・医療の進歩に貢献することができる	◎

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業においては口頭で, またLMS等を通じて全体あるいは個別にフィードバックを行う。

XI. 求められる事前学習, 事後学習およびそれに必要な時間

事前学習 (30分): 他の人の発表内容に関する該当部分の章を読んで授業に臨むこと。また, 発表の担当となった場合には, 発表のためのパワーポイントの資料を作っておくこと。

事後学習 (30分): 他の人の発表を聞き, 自身の発表につながる内容について復習し, 考察すること。

XII. コアカリ記号・番号

医学教育モデル・コア・カリキュラム令和4年度改訂版 (p.20, 27, 28, 47)

PR-03-01: 教養

PR-03-01-01 人の生命に深く関わる医師に相応しい教養を身につける。

RE-01-01: 能動的姿勢

RE-01-01-02 何事にも知的好奇心を持って取り組むことができる。

RE-04-01: 研究発表

RE-04-01-02 発表の場に応じて読者・聴衆にわかりやすく研究内容をプレゼンテーションできる。

RE-04-01-03 他の研究者の発表に対して質問や意見を述べるができる

CM-01-01: 患者・家族への適切なコミュニケーションスキルの活用

CM-01-01-01 言語的コミュニケーション技能を発揮して, 良好な人間関係を築くことができる